

令和6年能登半島地震における上下水道施設被害について

- 令和6年能登半島地震においては、最大約14万戸で断水が発生するなど上下水道施設の甚大な被害が発生。
- 耐震化していた施設では概ね機能が確保できていたものの、耐震化未実施であった基幹施設等で被害が生じたことで広範囲での断水や下水管内の滞水が発生するとともに、復旧の長期化を生じさせた。



浄水場の被害（珠洲市）



送水管の被害（七尾市）

■水道基幹管路の耐震化状況(令和4年度末)

	耐震適合率
全国	42.3%
石川県	37.9%

■水道管路被害率

石川県(能登地方6市町)

事業体	被害率(箇所/km)
七尾市	0.57
輪島市※1	1.60
珠洲市※1	1.54
志賀町※2	0.17
穴水町	0.54
能登町	0.51

(参考1:熊本地震)

事業体	被害率(箇所/km)
熊本市	0.03
西原村	0.43

(参考2:兵庫県南部地震)

事業体	被害率(箇所/km)
神戸市	0.44
芦屋市	1.96
西宮市	0.85

※1:輪島市、珠洲市は建物倒壊地域等を除く調査実施済み箇所の集計値であり今後変更が生じる可能性がある

※2:志賀町の口径100mm以下は7月末時点で未集計